

<審査講評>

小学校の部

小学生の部では各学年の応募総数は6年生を除けば決して少なくないのですが、学年2校～4校の限られた中での審査となりました。特に、低学年の作品では同じような構図や表現の傾向にあるので、今後はもっと各々の子どもたちの個性が引き出された作品の応募を期待したいと思います。

1年生の入賞作品は、歯磨きをする人をクレヨンで力強く塗り込んだ作品が多く見られました。また口を開けて歯を磨く表情の特に目が、それぞれに独自の魅力がありました。ただ人物を大きく描いただけの作品や人物の後ろに何か模様や室内の様子などを描いた作品も、バック(背景)の画用紙の白い部分が塗り残したようにも見え、背景にもの足りなさが感じられたのは残念に思います。

2年生では画材をクレヨンだけでなく、後から水彩絵の具で仕上げた作品も増えました。上位入賞作品は、画面いっぱい口を大きく開けて歯磨きをする様子を喉の奥まで描いたり、親しみのある表情で擬人化して描いた歯にオノマトペの文字を加えたりなど、子どもらしい発想が新鮮でした。

3年生にもなると、主に水彩絵の具で描かれた作品ということだけでなく、上位入賞作品は形の捉え方や色の塗り方が丁寧など、技能面での中学年らしい成長が感じられました。またポスター作品にはユニークな発想でコピー(文案)の工夫が凝らされたり、絵画作品では歯を磨く人物を生き生きと描いたりなど、それぞれに自分らしさが表現された作品に仕上がっていました。

4年生の入賞作品は黒ペンで描いた後に絵の具で彩色されており、はっきりとした色使いできれいに仕上げられていました。2校のみの応募のためか、歯を擬人化した表現が取り入れられた同じような印象を与える作品が多くなっていますが、擬人化の表現の中にも各自が思いついたアイデアで制作し、自分らしさが表されていたのはよかったです。

5年生の上位入賞作品は、メリハリのある配色や背景にも気を配った画面構成、奥行きのある表現などの工夫が見られました。その中でも最優秀作品は、ポスターの役割を意識した効果的な色使いで一つ一つが丁寧に描かれ、笑顔の擬人化された歯や用具の表現は、見る人を自然と惹きつける秀逸な作品でした。

6年生の作品は、学年が上がっていくごとにポスター様式が主流となる中で、絵画作品や水彩画の技法を生かしたポスター作品も入賞を果たしました。また人物のイラストには、それぞれ個性がよく表されている印象を持ちました。最優秀作品は、水彩絵の具の濃淡を生かして丁寧に彩色されており、人物の肌や服にも陰影を施すなどの細やかな表現も見られ、感心させられました。

特別支援学校の部

視覚特別支援学校の子どもたちから応募された作品は、限られた視野や弱い視力の中で、また耳から得る情報などに想像力を駆使して制作していく過程に思いを馳せると、心が揺さぶられるようでした。むし歯菌をダイナミックに表現したり、歯磨きしている口の中を描いたりなど、どの作品も力強く気持ちのこもった作品になっていました。

中学校の部

中学生の部ではどの学年も多くの学校からの応募があり、見る人に歯の健康を維持していくことの大切さを訴えるなど、ポスターとしての目的を意識して制作されていました。

1年生では、自分の思いを自分らしく表現した作品が多く見られました。最優秀作品はパステル調のきれいな色で彩色され、見る人を優しく包み込む不思議な力が感じられました。優秀作品は個性的な表情をした人物のイラストと対比を意識した目立つ配色がうまく生かされ、訴求力のあるポスターに仕上がっていました。

2年生の作品の多くが、美術の授業や美術部で学んできた知識と身につけたデザインの技術や効果を生かして制作され、見応えがありました。入賞作品はどれも発想豊かなアイデアと表現で丁寧に仕上げられ、レベルの高さを感じました。最優秀作品は混色した色を中心にメリハリある配色でまとめられ、特にセパレーション(分離の効果)を生かした文字や人物の表現は、ポスターとして完成度の高さに結びついていました。優秀作品はそれぞれ独自の擬人化したイラストや場面設定がユニークで、インパクトのあるポスターになっていました。

3年生の上位入賞作品は、奥行きや空間の感じられる構図で描かれ、他学年であまり見ない新鮮な印象を受けました。また独創的なタッチや色使いが、自然と目に留まるような効果を出していました。最優秀作品は横構図の中に陰影をつけた表現とストレートなコピーで、迫力あるポスターに仕上がっていました。優秀作品の一点は明るい色調での迫力ある表現が、もう一点は食べ物の細やかな表現が、それぞれ空間の感じられる中に描かれ、魅力的でした。

最後になりましたが、このコンクールに際し、各校の先生方には大変なご尽力をいただき、心より感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

歯・口の健康に関する図画ポスター審査員代表
富田 千恵子